

# 令和8年度 福岡市社会教育委員会議 議事録

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時     | 令和8年5月29日(金) 10:00~11:50                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 場所     | 福岡市役所議会棟7階 第1・2応接室                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 出席者    | 別紙のとおり                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 議題     | (1) 令和8年度社会教育関係団体補助金について                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 報告     | <p>(1) 提言を踏まえた主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 福岡市学習情報システム「まなびアイふくおか」</li> <li>② 社会教育士とのつながりづくりについて</li> <li>③ 社会教育関係職員研修</li> <li>④ 共に学ぶ地域講座づくり研修</li> <li>⑤ 地域コミュニティ施策に関するeラーニング(生涯学習)</li> <li>⑥ 公民館や市民センターの利用状況</li> </ul> <p>(2) 令和8年度指定都市社会教育委員連絡協議会</p> |
| 公開・非公開 | 公開                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 傍聴人の数  | なし                                                                                                                                                                                                                                                                                |

## 1 開会

教育次長あいさつ

## 2 委員の紹介

## 3 議題

### (1) 令和8年度社会教育関係団体補助金について

事務局より、下記の各補助金について説明し、了解された。

○福岡市PTA協議会事業補助金

委員

福岡市PTA協議会からの委員が本会議では欠員というのはこの時期には珍しくないのか。

事務局

福岡市 PTA 協議会では役員の改選時期であり、欠員は特別なことではない。

委員

市内に小・中・特別支援学校は全部で何校あるのか。

事務局

小学校が146校、中学校がきぼう中学校と百道松原中学校を除いて69校、特別支援学校が10校の計225校である。

委員

学校の数と PTA の数は同じか。

事務局

校区ごとにある単位 PTA は学校数と一致するが、福岡市 PTA 協議会に加入していない団体がいくつかあるため資料の数字とは一致していない。

委員

PTA の数は横ばいか、減少しているのか。

事務局

校区ごとに設置されている単位 PTA については、照葉中学校が令和7年度末に解散した以外では、PTA が無くなったという話は聞いていない。それぞれの校区でそれぞれの実情に合わせて活動されている。昔のように全員加入という状況ではないが、まだまだ活動は続いている。

委員

百道松原中学校に PTA がないのはどういうことか。

事務局

開校して間もないため組織的にまだ整っていないというところである。

○福岡市立高等学校PTA連合会事業補助金

質問なし

○人権啓発地域推進事業補助金

質問なし

## 4 報告

### (1) 提言を踏まえた取り組み

事務局より、下記の内容について、報告した。

- ① 福岡市学習情報システム「まなびアイふくおか」
- ② 社会教育士とのつながりづくりについて
- ③ 社会教育関係職員研修
- ④ 共に学ぶ地域講座づくり研修
- ⑤ 地域コミュニティ施策に関する e ラーニング（生涯学習）
- ⑥ 公民館や市民センターの利用状況

#### 委員

②社会教育士とのつながりについて、今後のつながりづくりは、グループに参加してくださった 14 名の方々と交流を深めていくような縦軸に広げていくのか、参加されなかった残りの 29 名や今後講習を受講する方など横軸に広げていくことも並行してやっていくのか、方向性を教えてほしい。

#### 事務局

国の率先的な動きもあり、本市としての第一歩としてグループを立ち上げた。まずはつながりを広げていくことが重要だと考えている。参加いただいた相手の意向もあるが、縦にも横にもつながりを広げていきたい。事務局からとはいえ知らない人からの誘いに乗りにくいということも考えられるため、積極的に会う機会を作ってPRしていきたい。

#### 委員

つながることが目的になってはだめで、つながることでのどのような効果があるかを前面に打ち出して広げて、深めていただきたい。

#### 議長

社会教育士は九大、熊大、島根大などで在学中に称号を取ることができる。単に称号を取っただけで活かしていないという人も出てくるので、そういう人に情報提供をするのは大事なことである。広い範囲で様々なグループができている現状もあるが、楽しんでやっている人や、まだそこに到達していない人もいる。福岡市の社会教育活動が広がり高められたりしていくことが大事である。

#### 委員

社会教育士を取るには、大学に通えばよいのか。年齢制限などがあるのか。

#### 議長

称号を取得できる課程をもっている大学がある。

#### 委員

福大では在校生を対象にしている。九大で行っている3週間の社会教育主事講習は社会人が受講可能で年齢制限はない。

議長

放送大学でも取得可能である。学校帰りの活動や学校との連携はこれからの課題。地域とのつながりをコーディネートしてくれる社会教育士と組めば効果が高まる。学校も社会教育士と積極的に組めば良いと思う。

事務局

情報共有及び活動の支援について、早々に効果が出るものではないかもしれないが、地道に続けていくことで、これをベースに様々なことに展開していけると考えている。

委員

③社会教育関係職員研修のレポートについて、参加した人にとっても振り返りになるし、参加できなかった人も参加しようと思えるものである。公民館の訪問記などにもチャレンジしていて非常に充実していると感じた。

④共に学ぶ地域講座づくり研修について、このような取り組みを実施していることを知らなかったため、勉強になった。公民館と障がい者フレンドホームとの連携ができているのは、人権啓発地域推進組織（人尊協）で地道に校区単位で取り組んだ成果だと思う。フレンドホームは各区にあるので、このような施設について公民館の方が知ることによって地域とつながりができる。地域共生社会の実現に向けたアプローチになると感じた。

議長

5月16日、17日に篠栗の福岡県立社会教育総合センターで行われた、中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会で発表された東区の公民館の事例を事務局から共有いただきたい。

事務局

実践研究交流会では24件の実践事例報告があり、参加者がその中から選んで聞くことができる。その中のひとつに、小学生を対象にした東箱崎公民館のキャンプや登山などの取り組みについての発表があり、参加者から非常に反応が良かった。素晴らしさのひとつは、中学生、高校生になっても OB として戻ってくる仕組みができていて、それが拡充して公民館主催の事業にも大学生世代が手伝いに来てくれるというものだった。

議長

この実践研究交流会は43年続いている。中国・四国・九州地区から集まって実践事例を出し合っているが、関東関西からの参加者もいる。その中で私も福岡市の発表を聞いたが、とてもよかった。福岡市は小学校区ごとに公民館があり、そこで取り組んでいることの良さを含めて、立派な発表をもっと他のところに聞いてもらわないといけない気がした。我々社会教育委員としては、そのような活動が大いに推奨されるように応援隊になっていくというのが大事だと思う。

委員

⑥公民館や市民センターの利用状況について、利用者数が増えているがどう分析しているか。

## 事務局

令和4年からの3年間で利用者数は右肩上がりとなっているが、令和元年度は今より多い。令和2年のコロナ禍以降、利用制限などもあり減っていたが、令和4年以降は地域活動も含めて皆さんの活動が戻ってきたため増加傾向にある。今後「立ち寄りたくなる公民館」を目指して、公民館側の事務負担を軽減して、そこで生じた余力を主催事業の充実、魅力ある講座づくりなどに振り向けていきたい。まずは公民館に立ち寄っていただきたいと考えている。

## 委員

コロナ禍で落ち込んだニーズが戻りつつあるというのはとても重要なことで、社会教育施設のニーズがあるということ。分析できない部分もあると思うが、学びを支える施設に対するニーズが高まっていると思う。このようなデータは、提言にもあるように福岡市民の学びのニーズを示すもの。社会教育や生涯学習の意義が強まっているという意味で貴重なデータである。今後もアピールしながら、根拠データに基づきながら進めていきたい。

## 委員

公民館の話が出ているので現場からも状況をお伝えする。コロナ禍でグループサークルを解散した人たちも多かった。高齢のグループサークルの方々は特に、活動が無くなったことで復帰できなかった方もいたし、自主的に「もうそろそろかな」と思っていた方々が辞められた。その影響がかなり大きかった。コロナ禍後に活動再開し戻ってきた人もいるし、近年新たにサークル活動に参加してきた人も増えてきたため、利用人数も少しずつ増えてきている。一般の方にも「公民館を使えるよ」ということが広く知れ渡ってきた気もしている。まなびアイふくおかをはじめとするHPや、公民館や区ごとにインスタグラムなどのSNSを積極的に活用するところが増え、うちの公民館でもインスタグラム経由の問い合わせが増えてきている。これまで利用があった高齢者や乳幼児、小学生の保護者を含めたところ以外の若い世代に利用してもらえるようになっており、新しい世代に期待しているところ。「立ち寄りたくなる公民館」のキャッチフレーズのもと、さらに「もっと立ち寄りたくなる公民館」にしたいと考えている。ただ、利用者が来れば来るほど、社会教育施設としての公民館の質をどう担保していくかが難しいところ。グループサークルや地域団体に関しては、年間を通して利用があるため、こちらから提言もできるし状況把握も可能だが、一般団体にとってみれば、貸し部屋と思って使う人も少なくない。「公民館ってこんな施設ですよ」と説明するのは困難。これをどうやって地域につなげていくかという部分で苦慮している。自治協議会や人尊協といった地域コミュニティの支援に力が割かれているところもある。そんな中、公民館に来られた方々にどうサービスしていくか、苦労している。

## 委員

公民館の努力によって利用が増えたということは素晴らしい。利用者ごとの対応に苦慮されているということがよくわかる。社会教育関係職員研修で講師として貢献していきたい。また、現場のニーズを踏まえながら対応していきたい。

議長

長く館長をしているお立場からの核心を突いたご意見だったと思う。積極的に大いにも人もお金も投資いただいて、職員の方々も豊かな指導ができるようになると良いと思う。自身の校区では、公民館が小・中学校のバザーや小学校の田植えなどにも入って応援していて、地域に入り込んでいる。一方で、町内会に加入する人が減るなどの状況もある。体育祭、文化祭、夏祭りのイベントへの参加者は年々盛況になってきている印象である。いろいろな活動のコーディネートをするのが公民館の役割、社会教育の役割だと思う。

委員

「立ち寄りたくなる公民館」は、とても良いフレーズ。現場から作られたのが素晴らしい。②の話の中で、「つながることが目的化したらダメだ」と先ほど委員から意見があった。「立ち寄りたくなる」が目的になったらダメだとも言え換えられる。そこを意識していただけたらすごくよくなると思う。

## (2) 令和8年度指定都市社会教育委員連絡協議会

事務局より、協議会の内容について説明し、了解された。

議長

報告事項に関わらず、各委員より専門分野からのご意見も伺いたい。

委員

小学校で公民館とも普段から連携させてもらっている。昨年の人尊協の研修会に講師として招かれ、学校の話をする機会があった。地域の方に向けて、「学校で子どもたちはこういうことをやってるんですよ」と話をできたのがとても良かった。また、これまでなぜやってこなかったのか、と反省もした。公民館との関わりをしっかりとって地域とつながりたい。そこから社会教育の面でお手伝いできることがあればしていきたい。

委員

先週、体育祭が終わった。子どもたちにアンケートを取りながら、何ができるか考えながら実施した。今の中学1年生の子は小学校1年生のときにコロナ禍で入学式ができず、多数の子が「つながりたい」という言葉を書いていた。先輩や後輩とのつながりを書いていた人もいれば、地域とのつながりを書いている人もいた。そこも求めているのかと分かったのでアンケートをして良かった。

委員

自治協議会からのつながりで公民館はよく利用させてもらっている。コロナ禍の時はなにもできず公民館にも行けなかった。今は前と同じ活動ができているが、参加する人の中には「マスクしなきゃいけないの」、「人数はどうしてあるの」と心配する人もいるが、「楽しくできればいいんだから」と言っている。男女共同参画というと固く捉えられがちだが、とにかく楽しくできればいいと思って活動している。

委員

学校や PTA の話は自分には昔の話で、「今は私たちの時代と教育方針など全く違

っているな」と皆さんの話を興味深く伺った。公民館に関しては子どもより老人の利用が多いのではないかと感じている。

#### 委員

生涯学習ということであれば乳幼児教育から学校教育、社会教育を大きく束ねたものが生涯学習になると考えている。ひとつ筋が通っていないといけなしたら人権問題である。PTA や公民館活動の中でそれをどういう風に広げられているか。私は解放同盟なので、「まだまだこういう差別があるんです」と、自分の言葉で伝えていかないと。福岡市の乳幼児教育はものすごく進化してきた。だけど逆に地域の中で幼児教育学級、家庭教育学級、そういう講座に参加すると、なかなか参加者が少ない。お子さんを育てていくのに昔は地域ぐるみで「親育て」をやっていたが今は難しくなっている。PTA や公民館活動などいろんなところで充実させていきたい。人権 8 課題は、法務省は 17 課題と言いつつ始めているが、1つ1つ大事なものである、それを含めて生涯学習として活動をやっていかないといけないと思っている。

#### 委員

3 年前に初めてこの会議に参加したときに、福岡市は小学校区に 1 つ公民館があるという素晴らしさを知った。でも、社会教育に参加する市民は 4 割弱、目標は 6 割から 7 割と聞いて驚いた。最近、いろいろなグループや行事、公民館活動がものすごく盛んになっていると思う。公民館も市民センターもどんどん活用が進んでいる。社会教育、生涯教育の中の 1 つが学校教育。大人になってからでも、なかなか社会に出て行けない人がいるという問題は、学齢期に社会との関わりがあることが大事ではないかと思う。不登校の子を対象にえがお館で茶道の講師をすることになった。AI も IT もあるが、五感を使う、日本文化を感じさせることが大事。本心は「つながりたい」と思っているはず。でも「怖い」とか「失敗するんじゃないか」とかいろいろ考えてこもってしまっている子もいる。日本の伝統文化で気持ちを前向きにできたらと思う。それが大人に繋がって、生涯学びたいという気持ちになるのではないか。子どもたちに教えるとすごいと感じる。

#### 委員

スポーツ推進委員をやっているが、コロナ禍を経てスポーツ人口はずいぶん減ったと感じている。5 年経って高齢化となって、維持できないところからスポーツ人口が減った。子どもたちは少子化もあって、家族単位ばかりで、地域コミュニティがより希薄になったと感じる。「育成会には入りません」という選択をする家庭も少なくない。それを打開するため、地域コミュニティの場として、公民館が SNS などでも情報発信して地域の人に集まってもらう活動をやっていることも感じている。歴史を学びながら地域ウォーキングなど、新しい取り組みも多い。地域の人が集まる場として小学校区に 1 つ公民館があるという強みを生かして、地域コミュニティをつくるためには健康寿命を延ばすことが大事だと思う。わたしたちの団体も生涯学習に貢献したいと思う。

#### 委員

図書館よみきかせボランティアネットワークでは、学校でボランティアをしている保護者の皆さんや地域の皆さんのスキルアップ、選書や学校との関わりなどを一緒に考えている。子どもたちに好評だった実績ある絵本を共有してリストにして講座の参加者に配布している。会員はそれぞれの学校や図書館や幼稚園やいろんなところで読み聞かせ

して心を育てることを目標にやっている。学校の先生も協力してくれる。ただ、コロナ禍以降は何もできてないという学校もある。前は教育委員会から学校でボランティアするためのプリントをもらったりしていた。そのようなものを出してもらって活動がしやすくなったら良いと思う。タブレット学習、電子の教科書が導入され、紙の本はどのようなのかと言われることもある。どうしても画面で見て学習すると脳がパターン演習と認識する。良いところもあるが、自分の中に落とし込むという点は難しくなったりする。共存しながらうまくやっていければいいと思う。

#### 議長

学校図書館を地域の中心という動きもある。図書館の役割は大きい。

#### 委員

不登校サポートネットは子どもが不登校になった経験を持つ保護者で構成されている。支援者として十数年関わっている。民生委員の主任児童委員として関わったことがきっかけ。不登校の子どもを持った経験はないのでためらいもあった。うちの特徴は保護者の支援。保護者が元気になったら子どもも元気になる、子どもに良い影響を与える。保護者は、「子どもが学校に行かないのは親が悪い」とさんざん言われ、それに苦しんできている。自分の子どもが他の子と同じことができないというのは苦しいと思う。不登校サポートネットは寄り添いネットを立ち上げて茶話会などを行っている。小さい貸し会議室を利用していたが近所の方から「うるさい」と言われ、公民館に相談に言ったら快く貸していただいた。百道松原中学校の保護者もいるが、そこで PTA 活動をするのはちょっと難しいのではと感じる。やっぱり自分の子どもだけで手いっぱいなのではと思う。そういう方々が PTA の活動をするのはそう簡単じゃないという感じがする。できると思うが、時間はすごくかかると思う。ひとつひとつ一歩ずつ積み上げてやらないといけない。不登校を「治す」という「ビジネス」が横行している。親は苦しいのでお金を払って何とかならんとびっくりするほど高いお金を出して施設に入れて、うまくいかなかったということもある。そういう事例があることを知ってもらいたい。

#### 委員

子ども NPO センター福岡は子どもに関わる NPO のネットワークで「NPO の NPO」のようなところ。これとは別に福岡県の子ども食堂ネットワークの代表も務めている。その視点で今日の資料を見ていた。福岡市内の公民館が 149 か所あって、子ども食堂は福岡市内に 159 か所あるので子ども食堂と公民館の数は同じぐらいなんだと思った。子ども食堂はこの5年で倍くらいに増えてきていて利用者も増えている。公民館の利用状況を見ると増加傾向にあるということを考えると、公民館や子ども食堂など地域の中で人が集う場、つながる場の重要性、必要性は、大きくなっているのかなと思う。子ども食堂に来る子に「なんで来たの」と尋ねると「友だち一緒にごはんが食べられるから」「スタッフのおばちゃんと話をするのが楽しい」と言ってくれる。公民館も子ども食堂も、つながって楽しい、あったかい、そういう場が求められているし、裏を返せばそういうことが日常の中で得られにくい社会になっているのではないかと感じた。

#### 委員

地域の方から子ども会が無くなって公民館行事に子どもが少なくなった、子どもたちに公民館に来てほしい、といった話を聞く中で、皆さんのお話も「その通りだな」と思い

ながら伺っていた。学校になかなか行けない子が公民館のサークル活動に行けるようになったと聞いた事例もある。多様な学びの場、障がいを持った方の学びの場づくりも大事な観点だなと思った。公民館に来ると安心できる、学びを得られる、そういった空間づくりが必要だなと痛感した。

#### 委員

議員としての 3 年間、教育を主眼に考えてきた。個人的な考えとして、次の学校に行くための学校になっている側面もあると聞いているので、地域とのつながり、将来とのつながり、目の前の学びが自分の将来にどうつながるのかを実感しながら学ぶことができないと学校で学ぶことの意義が見出せないと思う。学校と地域の垣根を除いていかないといけないと思う一方で、議員も行政も、子どもたちに一方的に「これが必要だ」と押し付けるのではなくて、子どもたちひとりひとりにとってプラスになるのか、先生方にとって助けになるのか、などを考えながら学校と実社会をつないでいく仕組みを作らないといけないと思う。これからはどうコーディネートしていくのか、学校での学びと外の人材が持っているいろいろな知識、活動をどうやって子どもたちの学び、質の高い学びにつなげていくのかを考えていかないといけない。社会教育士、不登校などのキーワードが出てきたが、どうやって学校現場とつなげていくのか考えていきたい。

#### 委員

社会教育士が地域に増えることで福岡市がより豊かになると思う。社会教育士の受講の後押しになるようなことをやってほしい。公民館職員は本人が有休を取って自腹で行こうと思っても、職場や地域からストップがかかったりして行けない。修了したら地域に還元される、退職後も地域に残っていくので、背中を押してくれるともっと社会教育士が増えていくと思う。

#### 委員

12 年間社会教育委員をやって最後の会議になると思う。皆さんの話を聞いてきても、学びを通じた、もしくは文化活動を通じた成長がうかがえた。それをサポートしていく皆さんの取り組みやそこに対する悩みや不安、誇りもあるということが、12 年間の調査や会議を通じて得ることができた。こうした話が社会教育委員会会議でできること、社会教育というカテゴリーで学びに誇りを持っている人たちが議論できるのは素晴らしいと思った。

#### 委員

保育園園長 6 年目になる。保育園なので保育をするのはもちろんだが、仕事をしながら子育てしている親御さんにどう関われるかということを考えている。園長になった時はコロナ禍で、それぞれが孤立しているという印象を持った。親御さんは悩みを保育士にぶつけている。保育士に相談することで普段の悩みを少しでも解消できればいいと思う。保護者の中でもつながろうという気持ちが強いと感じる。いろんな行事をしたがる。「仕事をしながらで大変だろうから簡素化しましょう、数を減らしましょう」と提案するが、「親子遠足の後に BBQ したいんです」など、若い親御さんたちは親御同士でつながりたいという思いをひしひしと感じる。社会教育が、子育てをしている親御さんにどういう関わりができるのか、道がたくさんあると親御さんも助かるのかなと思った。

委員

公民館館長を長年務めていることを誇りに思える会議だった。来週、館長会の集まりがあるのでしっかりこのことを伝えていきたいと思う。

議長

社会教育士が育っていくにあたって、その人たちが集まって座談会がある時に、われわれ社会教育委員も入って話をしたい。福岡市の将来の社会教育を語り合いたい。

## 5 閉会

## 令和8年度福岡市社会教育委員会議出席者名簿

### 【社会教育委員】

| 委嘱区分    | 氏 名     |
|---------|---------|
| 学校教育関係者 | 石松 あゆみ  |
|         | 副島 裕妃子  |
| 社会教育関係者 | 中島 瑞恵   |
|         | 長 ハル    |
|         | 南 幸盛    |
|         | 田中 真理子  |
|         | 志村 宗恭   |
|         | 齋藤 光子   |
|         | 上村 篤子   |
| 家庭教育関係者 | 田中 佳子   |
|         | 大西 良    |
| 学識経験者   | 田原 香代子  |
|         | 坂口 よしまさ |
|         | 古市 勝也   |
|         | 添田 祥史   |
|         | 植山 一希   |
|         | 小田原 耕一郎 |

### 【事務局】

| 役 職                 | 氏 名    |
|---------------------|--------|
| 教育次長                | 小川 直也  |
| 教育委員会総務部長           | 浦塚 一郎  |
| 教育委員会指導部長           | 井上 直美  |
| 市民局コミュニティ推進部長       | 小林 由希子 |
| 市民局コミュニティ推進部生涯学習課長  | 山本 武史  |
| 市民局コミュニティ推進部公民館支援課長 | 石井 秀一  |
| 教育委員会総務部人権・同和教育課長   | 大和 優子  |